



高度専門的治療を、  
24時間体制で速やかに提供



ドクターヘリ

ドクターヘリとは、救急専用の医療機器を装備し、救急医療の専門医師と看護師が搭乗した救急専用ヘリコプターのごとで、迅速に救急現場に出動（県内をおよそ15分でカバー）し患者に救命処置を施すとともに、いち早く最適な医療機関へ搬送することができます。好生館は、2014年から運航開始した佐賀県ドクターヘリを、連携病院として佐賀大学医学部附属病院と共同運航しています。さらに、2014年12月からは福岡県、2018年4月からは長崎県へも乗り入れ、この3県で相互補完する運用を行っています。



救命救急センター

医療スタッフ

- 医師  
救急科医師のほか、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、脳神経内科、整形外科、集中治療などの専門医が24時間体制で対応しています。
  - 看護師  
救命救急センター：看護スタッフ65名（看護師長：井上真弓）
  - メディカルスタッフ  
休日夜間は、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師の各1名が対応しています。また、ME（臨床工学技士）が増員され、平成23年度からは計10名となったため、CPA（心肺停止事例）に対するより迅速なPCPS（経皮的な肺補助装置）導入が可能となりました。
  - 診療領域  
救命救急全般、心肺停止、薬物中毒、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、急性心筋梗塞、不安定狭心症、急性大動脈解離、胸腹部救急疾患、多発外傷、呼吸不全、劇症肝炎、重症代謝性疾患、重症敗血症性、多臓器不全など
- その他の領域については、24時間、オンコール体制で対応しています。

- 救命救急センター
- 救命救急センター長／救急科部長 岩村 高志  
日本救急医学会 救急科専門医・指導医、日本集中治療医学会 集中治療専門医、日本外傷学会 外傷専門医、日本外科学会 外科認定医、日本航空医療学会 認定指導者
  - 医長兼災害医療対策準備室長 小山 敬  
日本救急医学会救急科専門医、日本内科学会認定医、日本航空医療学会認定指導者
  - 医長兼外傷センター副センター長 松本 康  
日本救急医学会救急科専門医、日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本航空医療学会認定指導者
  - 救急科医長 甘利 香織  
日本救急医学会救急科専門医、日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本循環器学会専門医
  - 救急科医長 吉富 有哉  
日本救急医学会救急科専門医、日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本航空医療学会認定指導者
  - 救急科医員 龍 知歩



Emergency and Critical Care Center



2021.9



# 救命救急センター

## Emergency and Critical Care Center



救命救急センター長  
岩村 高志

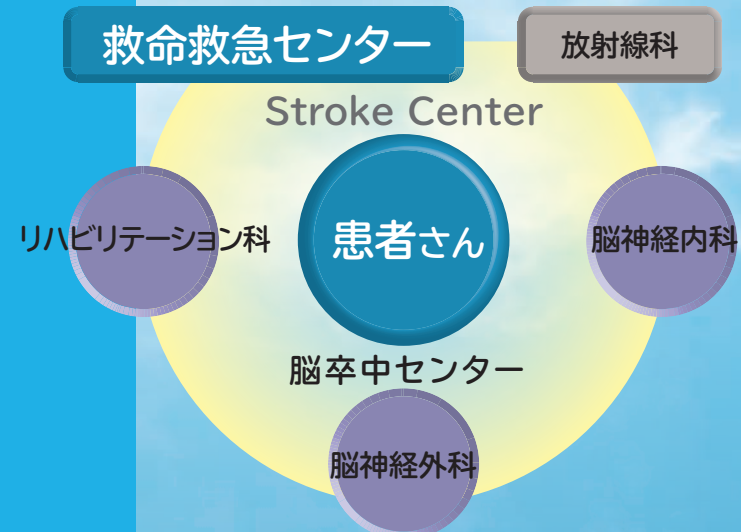
当救命救急センターは、1987年（昭和62年）に佐賀県初の救命救急センターとして開設され、救急医療における佐賀県の砦としてその歴史を歩んで参りました。2013年には現在の新病院へ移転し、九州初となる外傷センターや、救命センター専属看護師による質の高い外来トリアージなども稼働しております。さらに2014年からは佐賀県ドクターヘリ連携病院として、攻めの医療と称される現場救命医療を開始し、急性心筋梗塞や脳卒中などの緊急性が高い疾患に対しても、ハートセンターや脳卒中センターと協力して、高度専門の治療を24時間体制で速やかに提供できるよう充実させて参りました。

さて、現代医療は医療レベルの急速な進歩とともに求められる知識も膨大なものとなり、横断的診療を旨とする救急医学のカバーする領域も必然的に膨張を続けております。それに加え、高齢化社会による身体問題の多様性に伴う看護必要度の増加や、働き方改革に関連した夜間当直や休日時間外勤務に関する問題など、現場の情熱のみでは打開し難い社会背景となっており、現在、救急医の減少に伴い2018年度からは毎週金・土、祝前日、翌平日を除く連休中の夜間は、他科が救急外来業務を担当する形で、救急車受け入れ態勢の維持を図っています。これら救急医不在の時間帯は佐賀大学病院高度救命救急センターによるバックアップをお願いしております。

この様な現状をふまえ、我々は改めてしっかり未来を見据えていく必要があると考えます。救急医学とは、目の前の様々な病態の傷病者に対して、「その時点での自分たちのベストを尽くせるか?」ということを自らに問う学問であると考えます。県民の皆様が求める救急医療とは、おそらく「24時間365日、安定して質の高い救急医療が受けられること」であり、近隣医療機関が求める救命救急センターとは、おそらく「24時間365日、自施設では対応困難な患者を受け入れてくれる施設であること」だと思います。我々は、これらの普遍的な目標を達成するために、部門や病院を超えた連携体制整備を着実に実行していき、10年後、20年後も安定した救急医療体制を県民の皆様へ提示できるよう、佐賀大学医学部附属病院をはじめとした県下の医療機関や消防機関、行政等とさらなる連携強化を図って参る所存です。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

「救命救急センター」の連携概念図



## 救急科

Emergency medicine

### 地域の未来を支える医療へ

わたしたちは、1人でも多くの患者さんを受け入れるべく、重症病床20床に加え、隣接する集中治療室8床とも密に連携し、治療に当たっています。ERには、24時間体制で救急患者の緊急度判定を行う看護師「トリアージナース」を配置。来院した患者さんに問診し、緊急性の高い順で治療を行うシステムを採用しています。また、県下全域15分以内で到着できるドクターヘリを佐賀大学病院と共同運航し、より広く、迅速な救命を目指しています。

詳しくはホームページをご確認ください  
[https://www.koseikan.jp/medical\\_care](https://www.koseikan.jp/medical_care)



## 一人でも多くの命を救うためにベストを尽くす



## 外傷センター

Trauma Center

### 重症外傷を救命し、後遺症を軽減するために

事故や災害などによって起こる重大なけが。死の危険にさらされ、非常に緊急性が高い患者さんを救命することが私たちの使命です。限られた時間の中で、スムーズな搬送や適切な早期治療を行い、目の前の「救うべき命」に全力で挑むことは、外傷死を防ぐだけでなく、後遺症の軽減にもつながります。外傷はあらゆる部位を損傷する可能性があり、治療やリハビリテーションに長い期間がかかります。外傷センターでは各分野の専門医がチームとなって治療に当たるほか、外傷治療に関わる地域医療連携も強化していきます。



## 脳卒中センター

Stroke Center

SCU  
Stroke Care Unit

### 充実した治療手段に裏打ちされた早期診断と医療連携

緊急血行再建術やコイル塞栓術、そして緊急開頭術など脳神経領域における超急性期治療の進歩と適応拡大はめざましいものがあります。当館も脳神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、放射線科が連携して、これら治療の充実を図っており、近年は九州トップクラスの実績をあげています。スピーディーな処置に加え、精密な検査と適切な診断・治療といった総合的かつ多面的な診療を行う体制がないと達成しえないものです。どの分野もそうですが、脳卒中も今や単科での診療で対応する時代ではありません。好生館脳卒中センターでは各専門医の確保や設備の充実はもちろん科を超えた連携体制で、日々救命率向上と後遺症の軽減に努めています。

